

キクの病害虫の発生状況（5月中下旬）

1 白さび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図1）。育苗床からの持ち込みによる発生と思われます。本病は、キクの品種によって発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底してください。また、多湿条件が続くと発病しやすくなるので、これからの梅雨入りに備え、予防散布を心掛けてください。

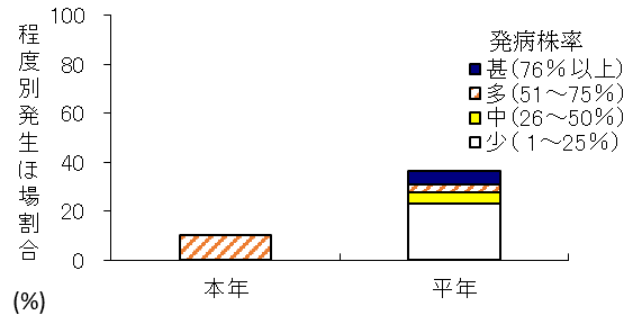


図1 白さび病の発生状況

2 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図2）。ほ場をよく観察し、発生が多くなった場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

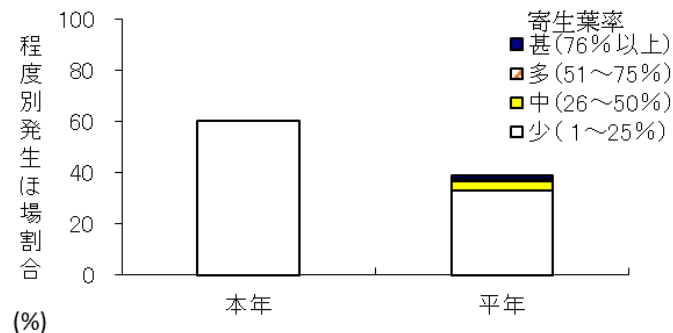


図2 アブラムシ類の発生状況

3 ハモグリバエ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施してください。

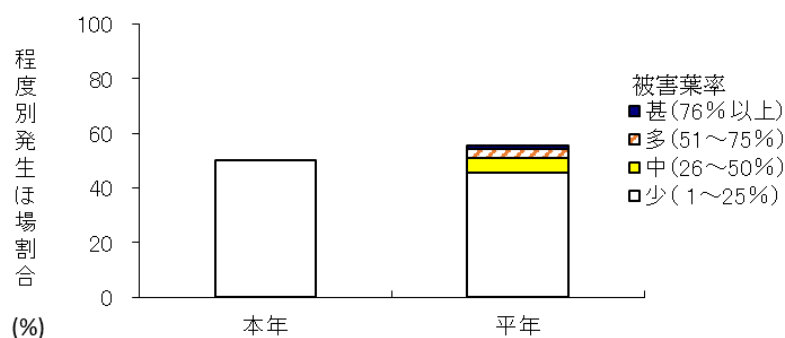


図3 ハモグリバエ類の発生状況

4 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。ほ場周囲の雑草が発生源となることが多いので、除草を徹底してください。発生種がミカンキイロアザミウマの場合は、効果の高い薬剤が少ないので、薬剤の選択に注意してください。また、本種は、TSWV等のウイルスを媒介するので注意が必要です。

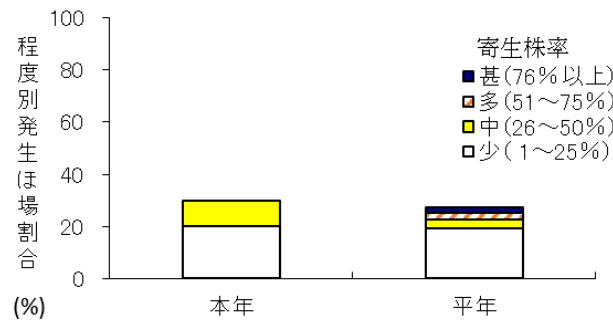


図4 アザミウマ類の発生状況

5 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。また、薬剤によっては、感受性が低下している可能性があります。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

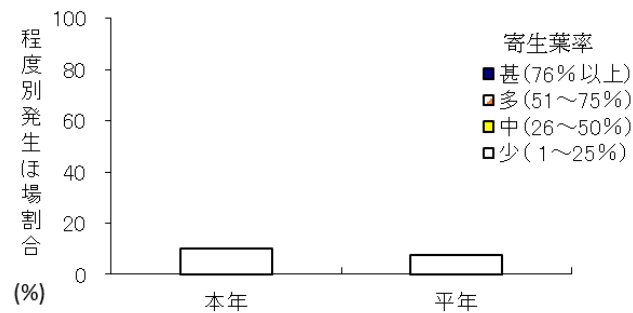


図5 ハダニ類の発生状況

6 オオタバコガ

巡回調査では、寄生は確認されませんでした。フェロモントラップ調査では、伊達市での誘殺数が平年より多い状況でした（図6）。成虫の飛来が6地点中2地点（伊達市、新地町）で確認されています。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

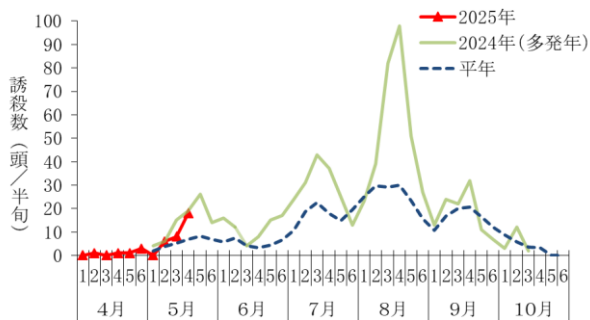
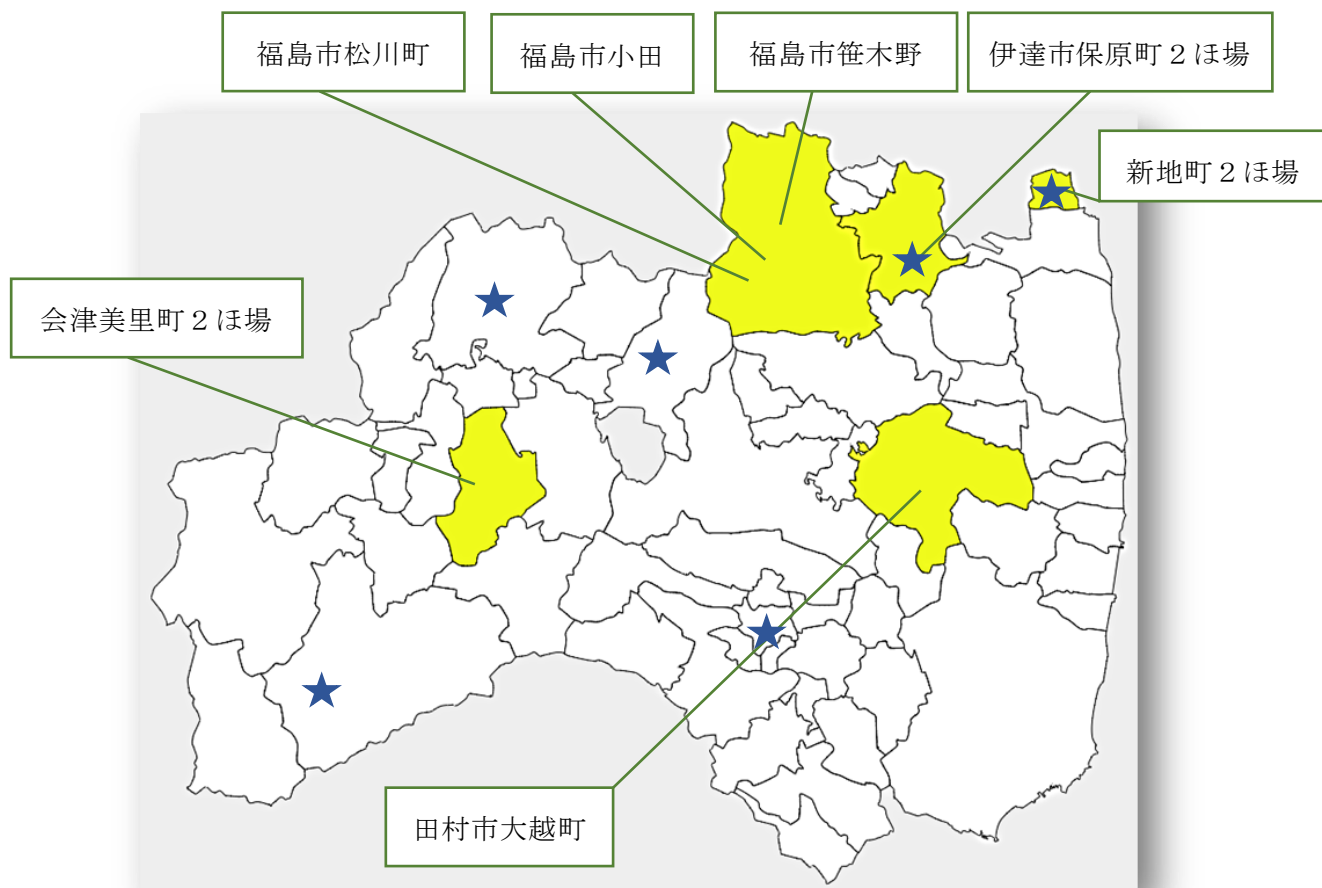


図6 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(伊達市保原町:キク)



写真1 キクに寄生するオオタバコガ

※キクの巡回調査は、下記の10か所を巡回調査地点としております。



★ : オオタバコガフェロモントラップ設置箇所 (トマトほ場含む)

● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp